

2 ②社会基盤ビジネス

一人ひとりの快適な日常を創る「SocietyOS®」 生活者視点の価値を持続的に提供する街づくり

NTTデータのスマートシティ推進担当では、「生活者視点」「デザイン」「バックキャスト」「ユースケース」「つながる力」「自分ごと化」という6つのキーワードを指針に、「SocietyOS」を活用した街に関わるあらゆる人に対して価値を提供できるスマートシティの実現を目指している。

生活者視点の価値を生み出す「SocietyOS」の創設

昨今、少子高齢化や環境問題、新型コロナウイルスがもたらす生活者ニーズの多様化や、それに伴う行政のデジタル化等、街づくりに求められる要素が複雑化している中で、これらの要素に持続的に対応していく手段としてスマートシティが注目されている。

このような社会課題に対し、スマートシティ推進担当では、これまでNTTデータ内で培ってきたサービス、ソリューション、ノウハウはも

ちろんのこと、NTTグループをはじめとする様々な企業の強みも活用しながら、それぞれの地域・都市の特性に応じたサービスを生活者視点で価値創出していくための新ブランド「SocietyOS」を立ち上げた。

「SocietyOS」は様々なサービスと柔軟に連携しながら、データを収集・分析・活用し、迅速に価値あるサービスをデリバリーすることが可能である。さらにそのデータ循環サイクルを重ねていくことで、より生活者の理解を深め、還元する価値を拡大していく(図1)。

スマートシティ推進担当では、「SocietyOS」を活用し、生活者視点で誰もが安心・安全で健康的、かつ日常を充実させられるような、個人に寄り添った街づくりを目指していく。

「SocietyOS」の強み

「SocietyOS」は現在、6つの強みを生かしたサービスを提供しており、それぞれの地域特性に沿って組み



株式会社 NTT データ
社会基盤ソリューション事業本部
デジタルコミュニティ事業部
第一ビジネス統括部
スマートシティ推進担当
課長 宮澤 宗平氏
課長代理 水谷 純子氏
主任 北島 悠衣氏
主任 梅田 有彩氏
宮地 春奈氏

合わせるができる。その街に関わる生活者にとっての価値を最大化し、街全体の運営最適化も実現していく。ラインナップは今後も拡大予定だ。

(1) パーソナライズ

個人の属性・特性や行動履歴などのデータをもとに、そのヒトの嗜好や傾向、状態に最適化されたサービスを提供する。

(2) ヘルスケア

個人のストレスレベルや心拍・呼吸数等をもとに、ウェルビーイング状態を推定し、そのヒトに寄り添った最適ケアを行う。



図1 「SocietyOS」が実現する社会像



図2 SocietyOSの強みを活用した社会事例

(3) 人流

GPSやBeaconなどの位置情報検知技術やデバイスを用いて、人の位置や移動をデータ化し活用する。

(4) 予測シミュレーション

過去や現在の情報をもとにした、バーチャル空間上での未来状況予測・検証を通して、素早い仮説検証や新たな発見に繋げる。

(5) 画像・映像解析

画像や映像データを処理・解析し、有効な情報を取得、発見する。

(6) ダッシュボード／分析

様々なデータや分析結果を見やすいUIで一元表示することで、瞬時に必要な情報を捉える。

目指す社会イメージ ～一人ひとりに寄り添った おもてなし体験の実現～

「SocietyOS」活用による社会イメージの一例として、一人ひとりに最適化され自然と満足を得られる”おもてなし”体験を提供し、生活者の行動変容を促すことで街区の最適化にも繋げていく(図2)。

具体的には、個人の嗜好や行動、ウェルビーイング状態などのパーソ

ナル情報と、店舗の商品在庫を加味した最適な商品の提案や、その時のココロとカラダの状態に沿った食事・行動の提案、天気やリアルタイムの人流情報・交通機関の混雑状況を踏まえた目的地までの効率的な移動方法の提案を行うことで、その時、そのヒトに合った最適な行動を促す。さらに、行ったことのない散策路や飲食店を分析結果から新たに提案することで、未知との出会いをもたらし、無自覚のニーズを叶える体験も可能にする。

「SocietyOS」の活用事例

スマートシティ推進担当では、様々な特性を持つ街区において、その街の目指すべきビジョンから共創し、「SocietyOS」を活用したスマートシティ実現に向けた取り組みを推進している。

代表的な事例として、NTTグループ一体となって取り組む「未来の街づくり」に向けて、品川や東桜をはじめとした街区を対象に様々なテーマで実証実験を行いながら生活者や街区への価値向上を目指している。

街区内の飲食店において来店数予測や需要予測をもとに食材発注や仕込みを最適化することでフードロス削減を目指すサービスや、パーソナライズを活用して一人ひとりの嗜好に合わせて混雑を回避できる店舗や商品を提案するサービス、個人のウェルビーイング状態を考慮した食事メニューを提案するサービスをはじめ、サービス同士を繋ぐことで街区全体の価値の最適化を図る取り組みを行っている。

また、大手町・丸の内・有楽町エリアにおいても、一般社団法人大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会様・三菱地所様と協業し、「SocietyOS」を活用した防災やモビリティ等の様々な分野のスマートシティサービスをプロデュースする取り組みを行っている。

課題ありき、技術導入ありきのシーズオリエンテッドではなく、街づくりの目標像を見据え、都市のポテンシャルを拡大する“ビジョンオリエンテッド”なスマートシティを、公民共同組織のもとと推進している。収集した都市のリアルタイムデータを元に意思決定を行う「エリアマネジメントのDXモデル」による、既存の都市機能のアップデートおよび都市空間のリ・デザインの実現に向けて、多様なモビリティと先進的な技術を高度に融合させ、移動・防災・バリアフリーの観点を盛り込んだ快適・安全・安心な街づくりを目指している。

スマートシティ推進担当では多様な都市の特性に合ったスマートシティの実現に向けて「SocietyOS」の機能を継続的に拡充し、今後も多くの顧客や生活者に価値を届けていく。